

県営低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業
(清水堂地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査概要(2)

富山市水橋金広遺跡
水橋田伏南遺跡
清水堂F遺跡
清水堂B遺跡

1997年3月

富山市教育委員会

例 言

1. 本書は、県営低コスト化水田農業大区画は場整備事業（清水堂地区）に伴う、富山市清水堂B遺跡の発掘調査及び水橋金広遺跡、清水堂田伏南遺跡、清水堂F遺跡の試掘調査概要である。
2. 調査は、富山県農地林務部富山農地林務事務所の依頼を受けて富山市教育委員会が実施した。調査費用の地元農家負担分については富山市教育委員会が国庫補助金・県費補助金の交付を受けた。
3. 調査の期間、調査面積は次のとおりである。

水橋金広遺跡	平成8年5月20日～平成8年5月24日	試掘調査	3,800㎡
水橋田伏南遺跡	平成8年9月24日～平成8年9月26日	試掘調査	5,700㎡
清水堂F遺跡	平成8年11月18日～平成8年12月17日	試掘調査	16,000㎡
清水堂B遺跡	平成8年11月27日～平成9年1月14日	発掘調査	250㎡

4. 富山県教育委員会文化課、富山県埋蔵文化財センターの指導・助言を受けた。
5. 調査及び本書の編集・執筆は、富山市教育委員会生涯学習課学芸員鹿島昌也が担当した。
6. 調査の実施から報告書作成までの間に次の各氏から有益な助言と協力を頂いた。記して謝意を表したい。
安達志津・宮田進一（五十音順、敬称略）
7. 本書の挿図・写真図版の表示は次のとおりである。

(1)方位は真北、水平基準は海拔高である。

(2)遺構の表記は次の記号を用いた。

S B : 掘立柱建物、S D : 溝、S K : 土坑、P : 柱穴状ピット、S E : 井戸、S X : その他の不明遺構

(3)挿図の遺物縮尺は $1/2 \cdot 1/3 \cdot 1/4$ を原則とした。写真図版の遺物縮尺は $1/2 \cdot 1/3$ を原則とした。

目 次

I 遺跡の位置と環境..... 1	(2)遺構と遺物
II 調査にいたる経緯..... 2	4. 清水堂B遺跡..... 4
III 調査の概要..... 2	(1) 調査の経緯
1. 水橋金広遺跡..... 2	(2) 発掘調査の概要
(1) 調査の概要	(3) 基本層序
(2) 試掘調査の遺構と遺物	(4) 遺構と遺物
(3) 立会調査の遺構と遺物	(5) 遺構以外の遺物
2. 水橋田伏南遺跡..... 3	(6) 試掘調査の遺構と遺物
(1) 試掘調査の概要	(7) 小結
(2) 遺構と遺物	遺構・遺物図..... 7・8
3. 清水堂F遺跡..... 4	写真図版..... 9
(1) 試掘調査の概要	

I 遺跡の位置と環境

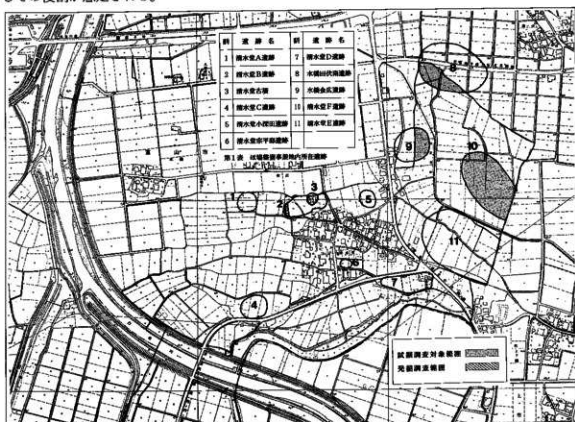
清水堂遺跡群は、富山市の東北部の水橋清水堂地区にあり、東は上市町、南は舟橋村と接する位置にある。清水堂地区は西に流れる常願寺川と東の上市川に挟まれた扇状地扇端部の湧水地帯にあたり、白岩川が、明治38年に改修されるまでは曲折して流れ、自然堤防や河岸段丘などの微地形を形成している。清水堂地区は白岩川右岸に位置しており、現在は集落の外れを流れている川も改修前は集落の傍を流れていた。このため川の後に広がる沖積平野部では、早くから豊富な水資源を利用した水田耕作が行われ、河川を利用した水運も発達していた。標高は約9mを測る。

周辺には白岩川の両岸をはじめ、上市川の河岸段丘との間に形成された微高地上の平野部には、縄文時代早期から近世に至る多くの遺跡が存在する。弥生時代、特に後期から古墳時代初期には、上市町江上A遺跡のような大集落や、滑川市魚射遺跡、富山市金尾遺跡等の集落が周辺には存在していた。

古墳時代になると白岩川本・支流域には県内の平野部では希少な「白岩川流域古墳群」と称される古墳群が造られる。上流部の丘陵尾根上には柿沢古墳群が存在し、中・下流域の平野部に至ると立山町に径46mの葦石・周濠・周庭帯をもつ稚児塚古墳があり、舟橋村には竹内天神堂古墳（前方後方墳）、塚越古墳（円墳）が見られ、富山市に至ると清水堂・宮塚・若子塚古墳が見られる。集落では古墳時代の前期までは弥生時代後期からの存続が窺えるが、中期になるとその中心がこの周辺に見ることができない。

奈良時代に入ると、常願寺川河口右岸に古代の官衙跡と考えられている水橋荒町遺跡が出現する。また、清水堂地区の南約2kmの立山町寺田・泉地区周辺は、「東大寺領大蔵荘」があった可能性が指摘され、その南には当該期に営まれた辻遺跡が存在し、関連性が注目されている。

立山町を中心とした山地縁辺部では、古代から中世にかけて須恵器生産が行われ（上末窯）、中世末から近世にかけては越中瀬戸焼の生産が隆盛する。清水堂地区もその産地から陸路や白岩川の水路を通じ、その消費地としての役割が想定される。



第1図 水橋整備事業地内所在遺跡位置図 (1:10,000)

II 調査にいたる経緯

平成4年度に、富山市水橋清水堂周辺の約36haの水田を対象として、県営低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業（清水堂地区）の計画が立案された。事業地内には既に周知の遺跡として5遺跡（清水堂A遺跡、清水堂B遺跡、清水堂C遺跡、清水堂D遺跡、清水堂古墳）の所在を確認していたが、一部に未調査地が残っていたため、平成5年1月に富山市教育委員会が詳細な分布調査を実施した。その結果6遺跡（清水堂E遺跡、清水堂F遺跡、清水堂小深田遺跡、清水堂宗平邸遺跡、水橋田伏南遺跡、水橋金広遺跡）を新たに発見し、合わせて11遺跡の所在が明らかとなった。

分布調査の結果を踏まえて、富山県埋蔵文化財センター・富山市教育委員会・富山農地林務事務所など関係機関の間で協議を重ね、事業が開始される平成6年度から富山市教育委員会が主体となって、事前に遺跡の試掘調査・発掘調査を進めていくこととなった。

平成6年度は、平成6年12月に清水堂A遺跡と清水堂C遺跡、平成7年3月に清水堂宗平邸遺跡を対象として試掘調査を実施し、それぞれ遺跡の所在を確認した。

平成7年度は、前年度の試掘調査で遺跡の所在が確認された範囲において、ほ場整備に伴う水田高の調整を行った上、農道敷設工事及び用排水路工事に先立ち発掘調査を実施した。また、平成7年12月から清水堂B遺跡、清水堂D遺跡、清水堂小深田遺跡の試掘調査及び清水堂D遺跡、清水堂宗平邸遺跡の発掘調査を実施した。

平成8年度は、前年度の試掘調査により、遺跡の所在が確認された清水堂B遺跡において、ほ場整備に伴う計画水田高の調整を行った上、農道及び用水路工事にかかる箇所について発掘調査を実施した。あわせて水橋金広遺跡、水橋田伏南遺跡、清水堂F遺跡の試掘調査を実施した。

III 調査の概要

1. 水橋金広遺跡

(1) 調査の概要

水橋金広遺跡は、水橋金広地内及び水橋清水堂地内にまたがる遺跡（約8,000㎡）で、ほ場整備にかかる3,800㎡を対象に試掘トレンチ28本を設定し調査を行った。その結果、1,500㎡に中世から近世にかけての遺跡の所在を確認した。出土遺物には弥生土器（後期）、珠洲焼、越中瀬戸焼、近世陶磁器がある。（コンテナ1箱）

平成9年2月に、工事計画変更による排水路新設工事に伴い、工事立ち会いを行った所、試掘当初地山と考えていた層の下に、さらに遺物包含層が所在することを確認した。これにより、急遽機械掘削を中止し、遺物の採集、遺構の確認、記録調査を約11㎡について行った。

基本層序は第1層水田耕作土（厚さ15～20cm）、第2層灰色シルト土（厚さ約10cm）、第3層黒色粘土層（鉄分含む、厚さ約25cm）となり第4層青灰色粘土層（間層、厚さ60cm）にいたる。第1層の下部の黄色土中及び第2層中に近世の遺物が散見され（近世包含層）、第3層中には弥生時代後期から中世の遺物が若干含まれる。間層を挟んで第5層黒灰色粘質土層（厚さ約40cm、植物質を多く含む）、第6層灰オリープ色砂質土層（地山土）に至る。第5層は縄文時代後期から晩期にかけての遺物包含層である。

(2) 試掘調査の遺構と遺物

1) 遺構

2T、5T、9T、11Tにおいて、幅約30~40cmの溝跡を数本検出した。2T、5Tは第3層上面に遺構を検出し、9T、11Tは第4層上面に遺構を確認した。

ii) 遺物

弥生土器(後期)、珠洲焼、越中瀬戸焼、近世陶磁器があるが、中近世の遺物が主体を占める。1は弥生時代終末期の壺の頸部と思われる。2~4は越中瀬戸焼で、2は鉄軸かかる小壺、3は小皿で削り出し高台、内面には灰軸がかかり軸止めが見られる。4は摺鉢で、18本以上の単位の卸目を密に有する。いずれも包含層からの検出によるもので、近隣からの流れ込みの可能性が高い。

(3)立会調査の遺構と遺物

i) 遺構(第3図・図版4)

第6層の地山面に隅丸方形の掘り方を持つ柱穴3及び土坑1を確認し、調査区南寄りに、南に向かって下る落ち込みの肩を検出した。柱穴は南北方向に列をなし、途中1本は土坑により切られるが、3間以上の掘立柱建物(柱穴間約1.75m)の可能性が考えられる。また、調査区東壁に中世以前に起こった、地震による噴砂の跡が観察された。東壁にかかる柱穴跡内から噴き上がるものも確認された。

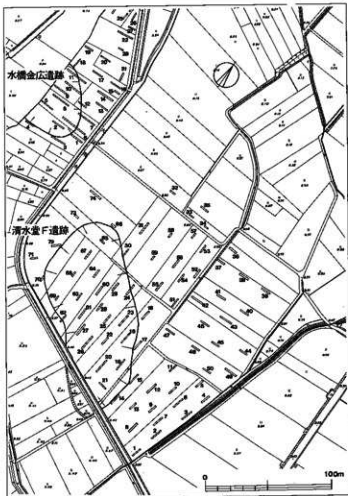
ii) 遺物(第5図・図版12)

出土遺物は大半が黒灰色粘土質の遺物包含層(第5層、縄文時代後期後葉から晩期前葉)からである。コンテナー3箱分出土した。12は深鉢で頸部に補修の為孔を穿ち、胴部は斜め方向の条痕を施した後、頸部に近い上部に横方向の条痕文を施す。頸部は緩やかにくの字に外反する。土坑内からの出土である。13は深鉢で、口縁をくの字に開き、頸部には2条の沈線と列点文を交互にめぐらせ、胴部はU字状に縄文とすり消した部分を沈線で区画し、沈線と列点文を挟みU字状の沈線を逆に配した区画がくる。口唇部を内側にやや肥厚させ、B字状突起を付す。縄文晩期前葉の中屋Ⅱ式期に属すると考えられる。14は石冠である。基底部が研磨されておらず、敲打痕が残る未製品である。15は硬玉の垂玉の未製品である。胴部が膨らみ、上部と下部に面取りをしている。

2. 水橋田伏南遺跡

(1)試掘調査の概要

水橋田伏南遺跡は、水橋田伏地内及び水橋清水堂地内にまたがる遺跡(約20,000㎡)で、ほ場整備にかかる5,700㎡を対象に、試掘トレンチ27本を設定し調査を行った。基本層序は第1層水田耕作土(厚さ30cm)、第2層旧水田耕作土(近世、厚さ10cm)、第3層灰褐色粘質土(砂混じり、厚さ約10cm、中世~近世遺物含む)、第4層黒灰色粘質土(厚さ20cm、中世遺物を含む)となり、灰白色粘土の地山に至る。どのトレンチからも近隣からの混入の遺物は散見されたが、遺構面が確認されずこの調査対象範囲内については、遺跡の所在を確認するに至らなかった。



第2図 試掘トレンチ位置図(1:3,000)

(2)遺物

珠洲焼、越中瀬戸焼片等数十点ある。5は珠洲焼の壺の胴部である。6は越中瀬戸焼の小皿である。皿の底部を削り込んで高台を作っている。7は越中瀬戸焼の向付の口縁部である。6、7いずれも17世紀初め頃のものである。

3. 清水堂F遺跡

(1)試掘調査の概要

清水堂F遺跡は、一部上市町に広がる遺跡で、事業区域の約16,000㎡を対象に試掘トレンチ74本を設定し調査を行った。基本層序は第1層水田耕作土(厚さ20~25cm)、第2層暗黄灰色土(厚さ20~25cm、中世遺物包含層)、第3層黒褐色粘土(厚さ20~35cm、古代~中世遺物包含層)となり、第4層灰色粘土の地山面に至る。また、第3層と地山面間に灰色砂層が厚さ1~30cm確認された箇所が存在する(67~74T)。遺構は調査対象地の南外れのトレンチで所在が確認され、(16、19~22、26~28、60~69T) 清水堂F遺跡は7,800㎡の範囲に所在することが確認された。

(2)遺構と遺物

i) 遺構

現存する大正用水(旧河道の一部と考えられる)に沿う形で、小礫混じりの砂質土を含む川跡の北肩を検出した。(27、62T) その北の段丘上に古代後期から中世にかけての遺構が存在している。遺構は第4層上面に溝、穴、土坑を確認した。64Tでは、東西に横切る幅約3mの北側に、小円形のピット群が確認され、掘立柱建物跡の柱穴の可能性ある。

ii) 遺物

弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、珠洲焼、越中瀬戸焼、近世陶磁器(肥前焼等)等コンテナー3箱分出土した。中世の土師質土器の摩滅された破片が60、61Tより西の地区で中世包含層に多く見られ、上層には、中世から近世にかけての珠洲焼片や越中瀬戸焼、近世陶磁器片が主に見られた。

8は越中瀬戸焼の小皿である。9、10は珠洲焼の片口鉢で、9は卸し目に流水状の波状文を施しており、吉岡編年Ⅱ期に属する。10は体部が丸みを帯びてゆるやかに開く器形で、口縁は方頭でほぼ水平であり、Ⅰ期に属する。11は17世紀後半から18世紀前半の肥前焼の皿である。

4. 清水堂B遺跡

(1)調査の経緯

前年度の試掘調査で、4,450㎡の遺跡の範囲を確認した。これを踏まえて富山農地林務事務所と協議を行い、水田面高の調整を行った結果、耕作面にかかる遺構及び遺物包含層は保護されることとなった。また、当初計画に無かった清水堂古墳を周回する農道が敷設されることになったが、表土掘削をせず、盛土のみの無舗装農道に留めることで協議が整ったが、遺跡の西端にかかる農道及び水路250㎡については、保護措置を要するため発掘調査を実施した。

また、富山県埋蔵文化財センターより、遺跡の南側の試掘対象地外であった事業区域にも遺跡が広がる可能性を指摘され、発掘調査に平行して当該水田にトレンチ3本を入れた所、中世(12~13世紀頃)の遺構を確認した。その結果、清水堂B遺跡が6,500㎡の範囲に広がっていることを確認した(第7図)。

発掘調査区は前年度のほ場整備区域に接しており、今回の対象地には、既に仮設の農道が前年度の整備事業で敷設されていた為、発掘調査は農道の盛り土を除去する所から始まった。重機による掘削が部分的に地山の遺構面まで及んでおり、仮設の排水路によって遺構が寸断されていた。

(2)発掘調査の概要

発掘調査は遺跡の西端250㎡の範囲について行った。遺構は、調査区中央付近に集中しており、中世以前の溝跡2条、平安時代の掘立柱建物1棟、中世の掘立柱建物1棟、井戸跡2基、土坑敷基がある。また、弥生時代後期及び中世の遺物を含む小穴が敷基確認されているため、当該期の建物跡が存在した可能性が高い。

(3)基本層序

調査区内は、ほ場整備の際の重機掘削が地山まで及んでいるため、調査区東の削平を受けていない試掘トレンチからその層序を見ると、第1層水田耕作土(厚さ15cm)第2層灰褐色土(中世遺物包含層、厚さ1~20cm)となり、第3層黄白色砂質及び青灰色土の地山面に遺構が存在する。

(4)遺構と遺物

掘立柱建物

SB01(図版10の2)

3間×2間以上の総柱建物で直径40~45cmの円形の掘り方をもつ柱を建てていた。柱穴6及び柱穴8の掘り方より平安時代の土師器片が検出されている。また、柱穴2には拳大の木片が検出され、柱穴5には柱根部に撥形に加工された木製品が検出された。(軸方向N-11°-E)

SB02

1間×1間以上の建物で掘り方を持たない。柱穴は直径約20cmの円形で、柱穴1より12世紀後半~13世紀前半の土師質土器の皿が出土した。(軸方向N-16°-E)

井戸

SE01(図版9の3、4)

SX01に切られている。素掘りの井戸で開口部の直径0.86m、底部の直径0.62m、深さ1.5mを計る。断面はU字形を呈する。上層から中世の土師質土器片が検出された。

SE02(図版9の1、2)

近代の暗渠によって切られている。素掘りの井戸で開口部の直径0.95m、底部の直径0.61m、深さ1.3mを計る。底部から1.0mあがった所に段を有する。上層から珠洲焼片口鉢片(IV期)(第4図2)、下層より珠洲焼甕の胴部片が出土した。

土坑

SK01(図版8の3、4)

SE01の東に検出した。楕円状の断面形を呈し、直径0.95m、深さ0.5mを計る。上層に須恵器甕胴部片(第6図2)が入るが混入である。下層に31×16cmの被熱し一部が欠け、約40%が黒色化した石がありその下に、杓形木製品(残存長40cm)1本、桃種片4、土師器碗(11世紀・平安時代後期)の承切り痕を残す底部が出土した。(第4図1)埋土は上層は黒褐色土で、下層は褐色土となり有機物を含む。

SK02

SE02の東に検出した。楕円状の断面形を呈し、直径1.05m、深さ0.49mを計る。上層から近世陶磁器片2、中層から拳大の石1、下層から土師器片2、鉄滓1(5.4×3.9cm)が出土した。埋土は黒色粘質土の単純層で、上層にはさ木の埋土が入る。

溝

SD01(図版6の3、4)

調査区を東から西へ横切っており、調査区中央付近で南東方向に折れている。かなり削平を受けており、規模は幅2.0~2.5m、深さ0.14mを計る。中世土師質土器、黄白色の生焼の珠洲焼片(図版13の12)等を検出

している。埋土は暗灰色土を基調とする。平安時代後期の段階で一度埋まり、柱穴等が穿たれるがその後再び溝として機能していたことが層序からうかがえる。

SD02

SX01とSB01柱穴7と切り合い関係を持ち、いずれの遺構よりも古い時期に機能していた溝である。幅0.85m、深さ0.14mで、埋土は灰色土を基調とする。遺物はなかった。

小穴

P1 (図版7の2)

SE01の北に検出した。直径20cmで深さ35cmを計り、弥生後期後半の高坏の脚部（一部赤彩痕あり）が出土した（図版13の1）。獨立柱建物等に伴う柱穴と考えられる。

P2 (図版7の3・4)

SE02の北に検出した。直径18cmで深さ20cmを計り、底部に被熱を受け黒色化した柱根石と考えられる石が検出された。時期は不明。

P3 (図版8の2)

SD01の下から検出された。SB01の南北中央柱列の延長上に位置する。長径0.48m、短径0.37mの楕円形を呈し、深さ0.15mを計る。穴から大小2つの杵形の木製品が出土した。（第4図）

大きい方の木製品は長さ28cm、厚さ11cmで、小さい方の木製品は長さ19cm、厚さ10.5cmを計る。いずれにも下部に柱のはぞ穴を半截したような加工痕が見られる。

(5)遺構以外の遺物（第6図）

①包含層

4は珠洲焼の甕である。外面に平行叩き目を持ち、内面はあて具痕の上から撫で付けている。

②排水溝

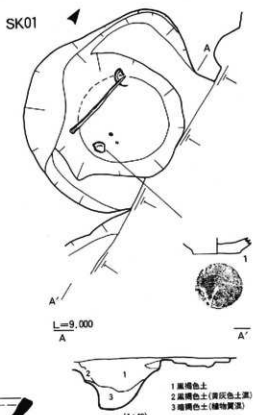
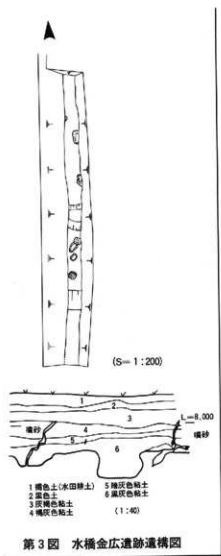
調査区を南北に縦断するほ場整備の際の排水溝からの出土遺物である。3は須恵器の壺の底部である。5は土師質土器の皿である。器面は摩滅しているが、外面の底部からの立ち上がり段を有する。14世紀に位置付けられる。6は珠洲焼の大甕の口縁である。コの字に外反する口縁で端部を垂下させる。口縁部外面にロクロ撫でをおこなう。I₁期に位置付けられる。7は肥前焼の碗である。19世紀の幕末に近い時期のものである。8は青磁の碗片である。内面にくし目を有する。中国の同安窯産のものである。

(6)試掘調査の遺構と遺物

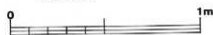
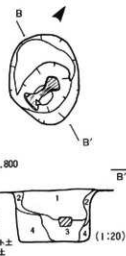
平成7年度に確認された遺跡範囲の南側に隣接する水田に試掘トレンチ3本を入れた所、西寄りの2本に穴や溝、土坑等の遺構が確認された。土坑からは第6図の9、10が検出され、いずれも12世紀～13世紀頃の土師質土器である。また、包含層から11の近世のどろめんこを検出した。よって、清水堂B遺跡の範囲が南側に広がっていることを確認した。（第7図）

(7)小結

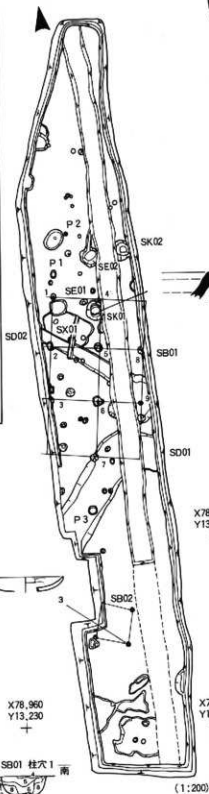
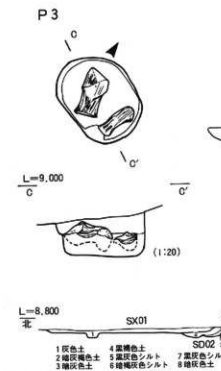
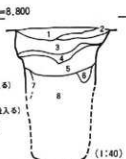
今回の調査区内には、平安時代後期から、鎌倉時代前期を中心とした集落跡の所在が判明した。この時期以前、調査区の東には、清水堂古墳が作られていたが、前年度の試掘により、周濠の内側まで削平され、中世期の遺構の存在が確認されている。今回の調査区内にも、弥生後期の遺構が僅かながら確認されているが、平安時代に至るまでの間に、河川の洪水等により大きく削平が行われてきた。しかし、扇状地の湧水地に位置するこの地に、その水資源を求め、井戸を掘り、獨立柱建物を建て、小規模ながらも平安時代後期～鎌倉時代前期に集落が形成されていたものと考えられる。



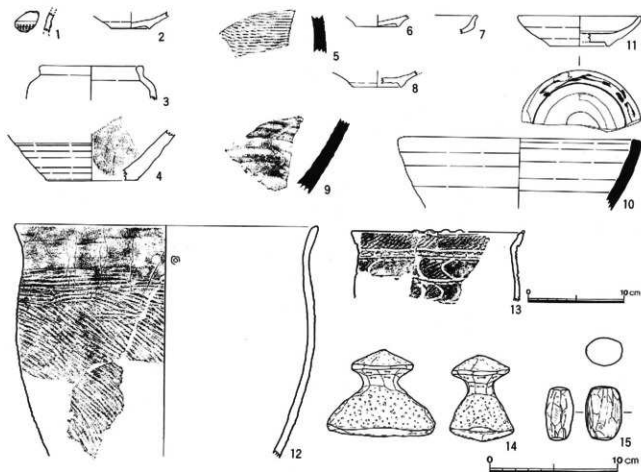
SB01 柱穴 5



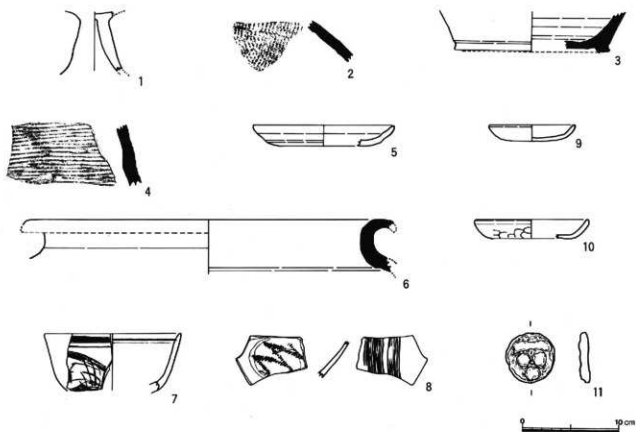
SE02



第4図 清水堂B遺跡遺構図及び遺構断面図 (全体遺構平面図 1/200、遺構図・土層図 1/20、1/40、遺物 1/4)



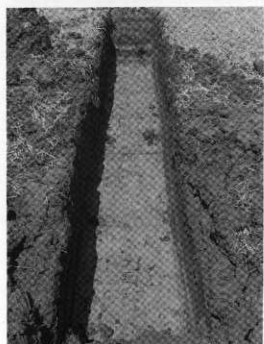
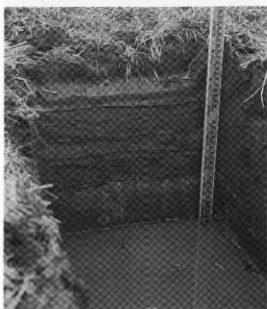
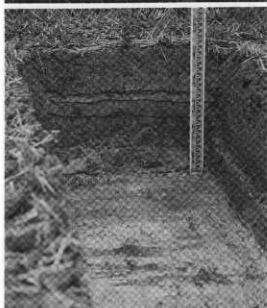
第5図 遺物実測図 (1~13は1/4、14、15は1/3)



第6図 清水堂B遺跡出土遺物実測図 (1/4)



渠営ほ場整備(清水堂地区)事業地付近航空写真(1:10,000)



1 ~ 4 水橋金広遺跡

5 • 6 水橋田伏南遺跡



1 層序



2 珠洲焼片出土状況



3 遺構検出状況

1～3 清水堂F遺跡



1



3

—中世包含層

—繩文後～晚期
包含層

—噴砂



2



4



5

水橋金広遺跡

1・2 遺構

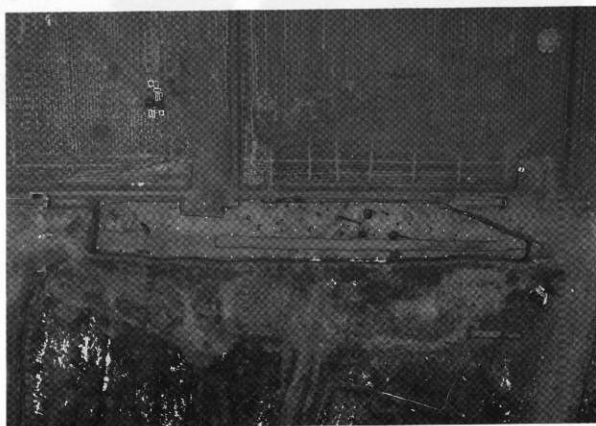
3・層序

4・石冠

5・硬玉製垂玉未製品



1 遠景 (西より)



2 全景

清水堂B遺跡



1 遺構検出状況



2 作業風景



3 SD01



4 SD01 土層



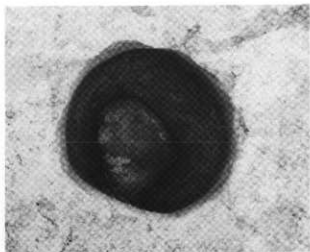
1 柱穴検出状況



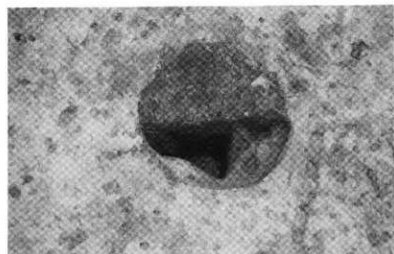
2 P 1



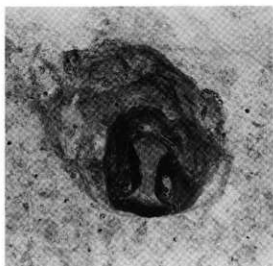
3 P 2 土層



4 P 2 石出土状況



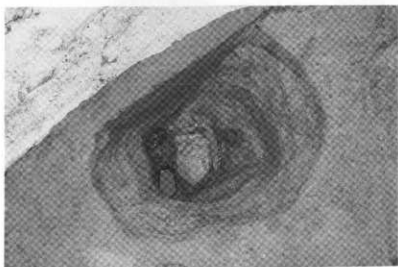
5 柱穴土層



1 SB01 柱穴5



2 P3



3 SK01



4 SK01 遺物出土狀況

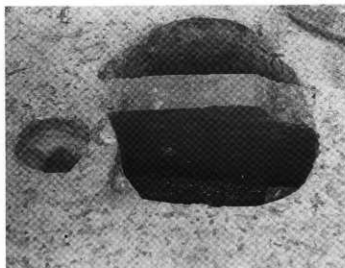
清水堂B遺跡



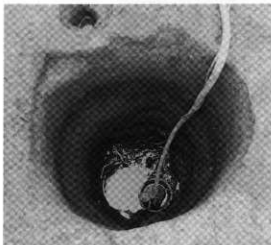
1 SE02 土層



2 SE02 完掘



3 SE01 土層



4 SE01 完掘

清水堂B遺跡



1



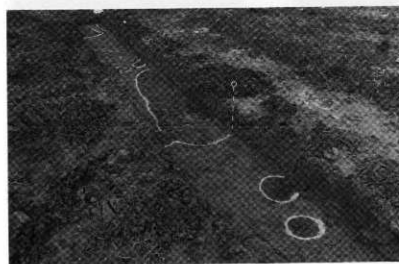
2



3



1 遺構検出状況(試掘)

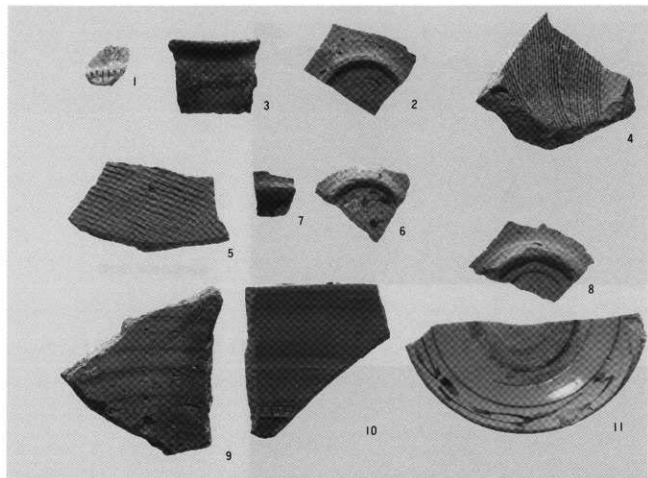


2 遺構検出状況

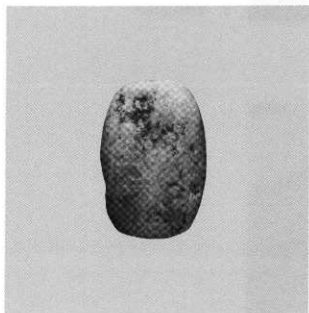


3 遺物(中世)出土状況

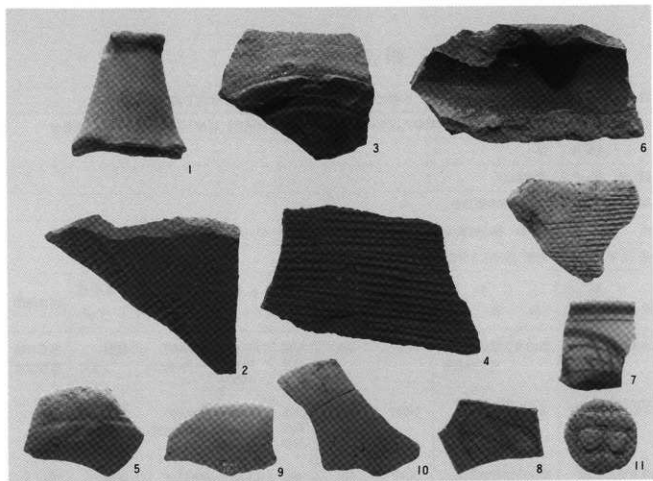
清水堂B遺跡



- 1 ~ 4 水橋金広遺跡
5 ~ 7 水橋田伏南遺跡
8 ~ 11 清水堂 F 遺跡



15 水橋金広遺跡



清水堂B遺跡

1. P I 2. SK 0 I 3. 5. 6. 7. 8. 排水溝 4. 包含層 9. 10. 11 試掘



第7図 清水堂B遺跡範囲図 (1 : 2,000)

報告書抄録

書名	富山市 水橋金広遺跡 水橋田伏南遺跡 清水堂F遺跡 清水堂B遺跡							
シリーズ名	県営低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業（清水堂地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査概要							
シリーズ番号	(2)							
編著者名	鹿島昌也							
編集機関	富山市教育委員会							
所在地	〒930 富山県富山市新桜町7番38号 Ⅷ 0764-43-2138							
発行年月日	西暦 1997年 3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
水橋金広遺跡	富山市水橋清水堂 字下今坂外	16201	250	36度 42分 45秒	137度 19分 04秒	19960520 ～19960524	試掘 3,800	県営ほ場 整備事業
水橋田伏南遺跡	富山市水橋清水堂 字東塚田外	16201	253	36度 42分 52秒	137度 19分 03秒	19960924 ～19960926	試掘 5,700	同上
清水堂F遺跡	富山市水橋清水堂 字中側外	16201	249	36度 42分 43秒	137度 19分 10秒	19961118 ～19961217	試掘 16,000	同上
清水堂B遺跡	富山市水橋清水堂 字中坪	16201	242	36度 42分 34秒	137度 18分 53秒	19961127 ～19970114	発掘 250	同上
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
水橋金広遺跡	集落跡	縄文（後・ 晩期）、弥生、 中世、近世	溝、土坑	縄文土器、石冠、硬玉 製垂玉、越中瀬戸焼、 近世陶磁器		近世の集落の縁辺部 下層に縄文期の集落		
水橋田伏南遺跡	散布地	中世、近世		珠洲焼、土師質土器、 越中瀬戸焼		遺構なし		
清水堂F遺跡	集落跡	弥生、古墳、 奈良、中世、 近世	溝、穴	弥生土器、土師器、須 恵器、珠洲焼、越中瀬 戸焼、近世陶磁器		7,800㎡に遺跡の所在 を確認 古代～中世の集落跡		
清水堂B遺跡	古墳・ 集落跡	弥生、古墳、 平安、中世、 近世	掘立柱建物跡、 井戸跡、土坑、 溝	弥生土器、土師質土器、 珠洲器、近世陶磁器、 木製品（杓状木製品）		12～13世紀を中心と した集落跡		

県営低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業
(清水堂地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査概要(2)

富山市

水橋金広遺跡 水橋田伏南遺跡 清水堂F遺跡 清水堂B遺跡

編集・発行 富山市教育委員会
〒930 富山市新桜町7番38号
(0764) 43-2138

発行日 1997年3月31日